

社会の“ふつつ”を問い直し、課題を解決する力の育成をめざして

～大阪が大切にしてきた人権教育の継承と発展～



夏季セミナー

府立人研だより

7月30日(水)・31日(木)

大阪府立学校人権教育研究会事務局

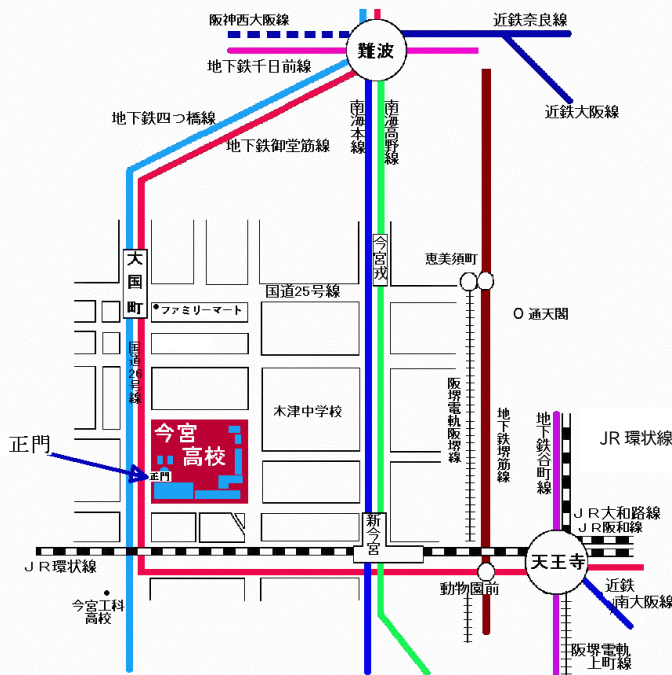
2025年6月27日 第9号発行

◆会場のご案内◆

府立今宮高等学校 (大阪市浪速区戎本町2-7-39)

JR環状線「新今宮」駅[西出口C]北西へ約300m

大阪メトロ御堂筋線・四ツ橋線「大国町」駅 南へ300m



◆参加お申し込みについて◆

1 資料代として当日2,000円が必要です。

2 申し込み方法

右記の二次元コードから

7月14日(月)までに

お申込みください。

<https://forms.gle/XR7zpbeQbTkR7G966>

(詳細は開催要項をご覧ください。)



*各分科会会場には定員があります。参加状況により、希望の分科会にご参加いただけない場合があります。その際には、事務局から連絡をさせていただきます。

◆お願い◆

*当日は名札・上履きをお持ちください。



*会場には駐車場がありませんので、自動車・バイク等でのご来場は固くお断りします。

*会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

*当日、掲示板で分科会会場をご確認ください。

7月30日(水) 第1日

9:30 10:00 12:30 13:30 14:00 17:00

内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会
----	----	-----	----------	----	-----

会場	多目的ホール	各会場
----	--------	-----

第1日 午前 全体会

全体会

多目的ホール

7/30
(水)

激変する情報環境とこれからの人権教育

講師：北口 末広さん(近畿大学 人権問題研究所 特任主任教授)

全体会

10:00

|

12:30

いわゆる人権三法で排他的な街頭デモは減りましたが、しかし、ネット上では未だ差別的な発言やフェイクが流布し、それに対して「いいね」の評価がされている現状やファクトチェックが機能していないSNSの実態もあります。また利用者の求める情報や反対する意見を見ることがなく情報を得られることができ、フェイクや差別的な言動があたかも“ふつつ”であるような状況を現在のネットは生み出すこともできます。人工知能(AI)の活用が昨今話題となっていますが、本当にAIに頼っても大丈夫なのでしょうか。AIが何を学び答えを導き出しているかを知る必要があります。私たちは正しい情報を見極める力が求められています。

今回の全体会では、このようなインターネットの環境や利用状況の分析から、今起きている、これから危惧される人権課題についてお話していただき、その対処や惑わされない力の育成につながるヒントを皆さんと一緒に考える会にしたいと思います。

第1セミナー（教材部会）

生徒たちが主体的に問うことができる教材づくりをめざして

講師：NHK福祉番組『toi-toi』のディレクター（予定）

みなさんは「toi-toi」という福祉番組をご存知でしょうか？コンセプトはまさに「問い」で、心の奥底に抱いてきた「問い」を、みんなで考えてみようという番組です。さまざまな課題がある社会に生きる子どもたちに課題を解決する力を育むためには、社会の“ふつつ”をそのまま受け止めるのではなく、「なんで」という問いから自分たちの取り巻く社会に疑問を抱くことが必要ではないでしょうか。

今回は toi-toi の番組制作に携わっておられるディレクターの方にお越しいただき、問いの設定や取材を通しての番組作りを私たちの教材やHRづくりに重ね合わせて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

7/30
(水)

第2セミナー（ケーススタディ部会）

不登校生徒の事例を通して考えよう

生徒を援助するための“サクッと”模擬ケース会議体験

講師：柿 慶子さん（大阪教育大学 特任教授）

昨今、生徒を取り巻く状況は複雑で、生徒1人ひとりの個別の援助ニーズが多様化しています。不登校の状態にある生徒、発達特性のある生徒、外国にルーツのある生徒、性別違和のある生徒、などなど、それぞれの学校で様々な事例と向き合っている教職員の方々は多いのではないのでしょうか。

ケーススタディ部会では、昨年反響が大きかった模擬ケース会議のワークショップを行います。不登校の生徒を事例にして、個別のニーズのある生徒を援助するために教職員が知っておくべきスキル（傾聴のスキル、アセスメントをする際の視点、短時間でのケース会議の進め方など）を参加者みなさんで学び、夏休み明けの生徒への支援に生かしていける会にしたいと思います。（事例は昨年と変更して行う予定です。）

分科会

14:00

|

17:00



第3セミナー（進路保障部会）

見えにくい排除を見つめなおす

—当事者の声に学ぶ、包摂と公教育の再構築—

講師：志水 宏吉さん（武庫川女子大学教授）

報告：府立福井高等学校

教育社会学者の志水さんをお招きし、著書『ひとりもとりこぼさない学校へ』をもとに、部落、貧困、障がい、外国ルーツの生徒たちの「語り」から見える、学校教育の排除と包摂の実態、そして「語り」の意味と教育的意義についてご講演いただきます。教育現場に潜む排除の構造と、それにどう向き合うかを考えます。

とりわけ、生徒のリアルな声を丁寧に聴き取ることの意義や、それを支える教育実践の可能性について学びます。インタビュー調査に協力した府立福井高等学校より、取り組みの紹介と人権教育担当者・多文化教育担当者、志水さんの3人で対談をしていただきます。

★書籍販売あり。

校長部会

多目的ホール

人権を大切に作る学校づくりをどうすすめるか

講師：平野 智之さん（追手門学院大学 教授）

対談：府立西成高等学校、府立松原高等学校

春季研修会での講演「私たちはなぜ人権教育に取り組むのか～府立人研に求められるもの～」をふまえ、今一度、府立人研のあゆみをふりかえり、府立学校における人権教育の取り組みの経緯、その成果や意義について確認していきます。あわせて、いま各校で求められている人権教育をどうつくっていくのか、人権教育をすすめるための学校運営のあり方や校長・准校長の役割など、人権を大切に作る学校づくりをどうすすめるのかについて考えていく機会にしたいと思います。

府立人研

大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

（通送便は「府立人研」とお書きください。）

TEL・FAX 06-6324-3822（直通）（お電話の場合は、火曜日をお願いします。）

E-Mail furitsujinken@nifty.com（お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。）

URL http://furitsujinken.in.coocan.jp/

HPをリニューアル
しました！



7月31日(木) 第2日

9:30 10:00 12:00 13:00 13:30 15:00 15:20 16:50 17:00

内容	受付	全体会	休憩 移動	受付	分科会 I部	休憩 移動	分科会 II部	事務 連絡等
----	----	-----	----------	----	-----------	----------	------------	-----------

会場	多目的ホール	各会場	各会場
----	--------	-----	-----

第2日 午前 全体会

7/31 (木) 全体会 10:00 12:00	全体会 なぜ今、ハンセン病なのか ～コロナ禍を越えた今、ハンセン病を学ぶ意義～ 公演：ハンセン病を伝える舞台プロジェクト「風の鳴る丘」 日本の伝統芸能である「講談」を通してハンセン病回復者の方の人生に学ぶ全体会を企画しました。変化の激しい現代を生きる子どもたちが自分の命の尊さをしっかりと自覚できることや「どんなにつらくてもきっと誰かが助けてくれる」と信じられる世の中にしていきたいという思いで公演活動を展開されています。コロナ禍を経た今だからこそ、直接「講談」を体験してみることから考えてみませんか？	多目的ホール
---	--	--------

第2日 午後 分科会 人権教育実践・入門セミナー及び教頭部会

7/31 (木) 分科会 I部 13:30 15:00	第1工房（防災と人権）	
	日々防災④ ～災害時みんなが困るのはトイレ?!～ 講演：笠井 あゆみさん（一般社団法人 あおぞら湯 代表） 実演：大住 真喜紅さん（一般社団法人 あおぞら湯） 三木 啓正さん（北大江地域防災力向上活動事務局・株式会社都市空間企画研究所代表取締役・一級建築士） みなさんは、備蓄品を使ったことはありますか？ 本セミナーでは、簡易トイレ擬似体験をします。きつと使ったからこそ分かる、多様な人の存在・配慮・支援などの「気づき」があるはず。そして、その「気づき」を生徒や同僚・家族…に伝えることこそが、「知る、伝える、備える、命を守る」という行動につながります。防災を通して、互いを尊重し、認め合う大切・心身を守ることの大切さを深めましょう。いざ、「防災からコミュニティへ」「コミュニティから防災へ」。	
	第2工房（多文化教育） 外国ルーツのある生徒へのサポート、一緒に考えてみませんか？ 講師：サプコタ スマンさん（府立学校卒業生） これから外国ルーツの生徒がさらに増えてくことは先生方も予想されていると思います。学校によっては「枠校のようなサポート体制がなくて…」と不安に感じている方もいるのではなんでしょうか。今回はネパール出身で現在は外国ルーツの子どもたちを支援しているスマンさんにお話していただきます。生い立ちから日本で学生生活を語っていただき、今の外国ルーツの子どもたちが抱えている不安や生活背景などを教えていただきます。この会では皆さんがインタビュアーとなり、スマンさんにどんどんと質問をしていただき、皆さんと一緒につくる会にしたいと思います。勤務校でのお悩みや素朴な疑問を投げかけていただき、外国ルーツの子どもたちもふくむ誰もが生き生きと学校生活を送れるヒントを探ろうと思います。今、大阪ではネパール出身の子どもたちが増えています。これから日本に来るだろう子どもたちの背景や、ネパールでの現状、またネパールへ帰った子どもたちの様子もお話していただく予定です。	
	第3工房（性差別撤廃教育） ジェンダー知らなきやバい時代がやってきた Vol.2 講師：アルティシアさん（作家） めまぐるしく変化する社会情勢のなか、教職員として、ジェンダー平等に関するデマや「逆差別論」「行き過ぎた多様性論」などに、振り回されないジェンダー感覚を磨いていく必要があります。今年の性差別撤廃教育チームの夏季セミナーでは、作家のアルティシアさんをお招きし、お話しいただきます。中高生への授業を通して感じておられる課題や、全国各地のご講演で気づかれたことなどを伺い、学校現場や地域で私たちができることを、参加者のみなさんと一緒に考える会にしたいと思います。	
	第4工房（情報と人権） *第8工房と同じ内容です。 「サイバーポリスゲーム」（教職員向け）で、情報モラルを学ぼう 講師：花田 経子さん（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科附属メディアデザイン研究所 所員） 報告：府立門真なみはや高等学校 近年、ネットをめぐる様々なトラブル・事象が発生しています。こうした事象を防ぐために愛知県警ではゲームを通じてネットとの付き合い方を学ぶサイバーポリスゲームを制作しています。従来は小学生向けのゲームでしたが、内容を教職員向けに改編したゲームを近年開発されています。このゲームの開発に携わった花田さんから制作意図や最近のネットをめぐる問題について講演していただき、ゲームを実際に体験します。府立門真なみはや高校からは「総合的な探究の時間」に高校生向けに改編したサイバーポリスゲームに取り組んだ様子をご報告いただきます。	

第5工房（支援教育）

一歩先の理想にむかって～誰もが働ける社会になるために～

講 師：濱田 和秀さん（NPO 法人 クロスジョブ 理事長）

堺を本拠地として、現在全国に8つの「就労移行事業所」をもつ NPO 法人「クロスジョブ」を立ち上げ、15年にわたって運営してきた講師の方に「障がい者」就労に取り組む想いをベースに、「就労移行支援」という事業がどのような支援をする場なのかについて、事例を入れながら説明をしていただきます。希望すれば、どんなに障がいがある「重度」と言われるような方でも、きっと民間企業で働けるという想いをもって、支援に取りくんできた、今の到達点について共有し、「教育と福祉」の垣根をどう乗り越えるかについてグループワークを行い、参加者どうしで交流します。

7/31

(木)

第6工房（部落問題学習）

私たちが部落を語るために

講 師：川崎 那恵さん（『部落フェミニズム』著者）

部落や部落差別、部落問題について誰かが語ろうとすると、しばしば「寝た子を起こすな」という声があります。「寝た子を起こすな」とは、「部落について多くの人には知らないのだから教えなくてよい。教えるから差別するようになるのだ」という主張ですが、この主張は、部落を語ろうとする声を封じ込め、とりわけ部落民にとっては自らの存在や歴史を「無いこと」にする能動的な抑圧です。いま、学校教育において、「寝た子を起こすな」論を乗り越え、部落について何をどのように教えるのか、また、教育を通じて差別のない社会に向けて行動する主体をどのように育てていけるのか、ともに考えてみたいと思います。

分科会

Ⅱ部

15:20

16:50

第7工房（若手工房）

笑う門には福来る～いじめられっ子の僕が落語家になったワケ～

講 師：林家 染太さん（上方落語協会）

中学時代にいじめを受けていた染太さん。「それをどのように乗り越えてきたか」、「その時、周りの先生や大人たちはどのように支えてくれたか」を語っていただきます。それと同時に、「命の大切さ」、「人を傷つけない話し方」、「夢を追う素晴らしさ」などを机上の空論ではなく、具体的に分かりやすく、笑いとおもしろく伝えていただきます。これまで20年間、全国各地で教員向け講演会を実施し、「おもしろくてタメになる」、「生きるヒントが詰まっている」と好評を得ている講演です。

新年度も約4ヵ月が経ち、生徒たちも新たな人間関係を構築している分、トラブルも多くあるのではないのでしょうか。染太さんがいじめ被害に遭ったとき、周囲の大人はどう動いたのか、どんな言葉を投げかけたのか、今後の生徒支援のヒントにしつつ、教育問題を考えていきたいと思います。

第8工房（情報と人権）＊第4工房と同じ内容です。

「サイバーポリスゲーム」（教職員向け）で、情報モラルを学ぼう

講 師：花田 経子さん（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科附属メディアデザイン研究所 所員）

報 告：府立門真なみはや高等学校

16:50

17:00

事務連絡およびコミュニケーションシート入力・記入

教頭部会

多目的ホール

7/31

(木)

不登校理解をめぐる変遷と居場所づくり

講 師：神崎 真実さん（京都教育大学 講師）

14:00

17:00

2023年5月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」（COCOLO プラン）が取りまとめられ、不登校児童・生徒に対する支援等の様々対応が求められています。公立学校では学校として何ができて、どのような体制が必要とされているのか、今まさに求められているニーズを理解し、学校としてどのような施策ができるのか、具体的な体制について知識を深め、明日にでも実践できるスキルやシステムの構築をめざしましょう。

府立人研

大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内

(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsujinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

U R L http://furitsujinken.in.coocan.jp/

HPをリニューアル
しました!